

交通安全だより第1号

I. 1月の安全運転管理について

1. 1年間の安全運転テーマを設定しよう

～事業場の安全運転テーマを設定する～

新年を迎え、心新たに事業場の安全運転管理・運行管理をすすめるために、今年1年間の事業場の安全運転テーマを設定しましょう。テーマは、管理者が設定するのではなく、運転者から募るようにすると当事者意識が芽生えて、安全運転に取り組む態度や意識の向上が期待できます。設定したテーマは会議や朝礼で周知するほか、社内の掲示板等に掲出して事業場全体への浸透を図りましょう。



～前年の事故・違反の統計を周知する～

新しい年へと切り替わるこのタイミングに、前年の反省を行いましょ。そのために、まずは前年に事業場で発生した事故・違反の統計を取りまとめます。事故は、道路上で発生したものだけではなく、事業場の構内で発生した軽微なものまで漏らさず集計します。取りまとめた統計を周知するとともに、発生頻度の高かった事故・違反については、具体的な防止策を検討しましょう。例えば、前年に駐車場でのバック事故が多かった場合は、バックする際に必ず誘導者を付けるといった取り組みとして具体化します。防止策の実施後には、事故や違反がどれだけ減ったか検証し、その結果を発表することで、運転者の意識を高めましょ。

～交通パートナーに配慮した運転を徹底する1年に～

今年の目標に、交通パートナーに配慮した運転の徹底を掲げてみてはいかがでしょうか。交通パートナーとは、歩行者や自転車など、交通に参加する全てのことを言います。近年では、電動キックボードも新たな交通パートナーとして台頭しています。交通社会では車は強者です。交通パートナーに配慮した優しい運転を心がけることで、自分自身の安全運転に繋げることはもちろん、安心・安全な社会への歩みを進めましょ。

2. 車に積もった雪を下ろそう

冬になると、車の屋根に雪が積もった状態で走っている車を見かけますが、これは非常に危険です。例えば、雪がフロントガラスに滑り落ちてくると視界が遮られます。反対に、雪が後ろに滑り落ちると後続車の走行を妨げて事故を誘発するおそれがあります。屋根に積もった雪は降ろしてから出発ましょ。



II. 運転マナーを大切に

マナーの良い運転は自分にも相手にも事故を起こさせないための重要なポイントとなります。基本や実践例について紹介ましょ。

- ◆ 運転中には、相手に譲る場合だけでなく、自車が相手に譲られることもあります。そのようなときは、相手に対して会釈をしたり手をあげるなどの身振りで感謝の気持ちを示ましょ。そうすることで、お互いに気持ちのよい運転を続けることができます。なお、感謝の気持ちの示し方として、クラクションを軽く鳴らしたり、ヘッドライトやハザードランプを点灯させるという方法がとられることもありますが、誤解されるおそれがありますので避けたほうが良いでしょう。
- ◆ 狭い道路で対向車が接近しているときは、相手が止まるだろうとは考えずに、自分のほうが率先して左に寄って停止し、相手を先に行かせるようにましょ。ただし、左に寄るときは、道路端に工作物などがなかどうかを必ず確認ましょ。
また、車高の高い車は、上方にある看板やひさしなどに接触するおそれがありますから注意ましょ。

Ⅲ. 今月の事故事例

◆事故の発生状況

令和〇年1月某日 10時10分頃 天候：曇り

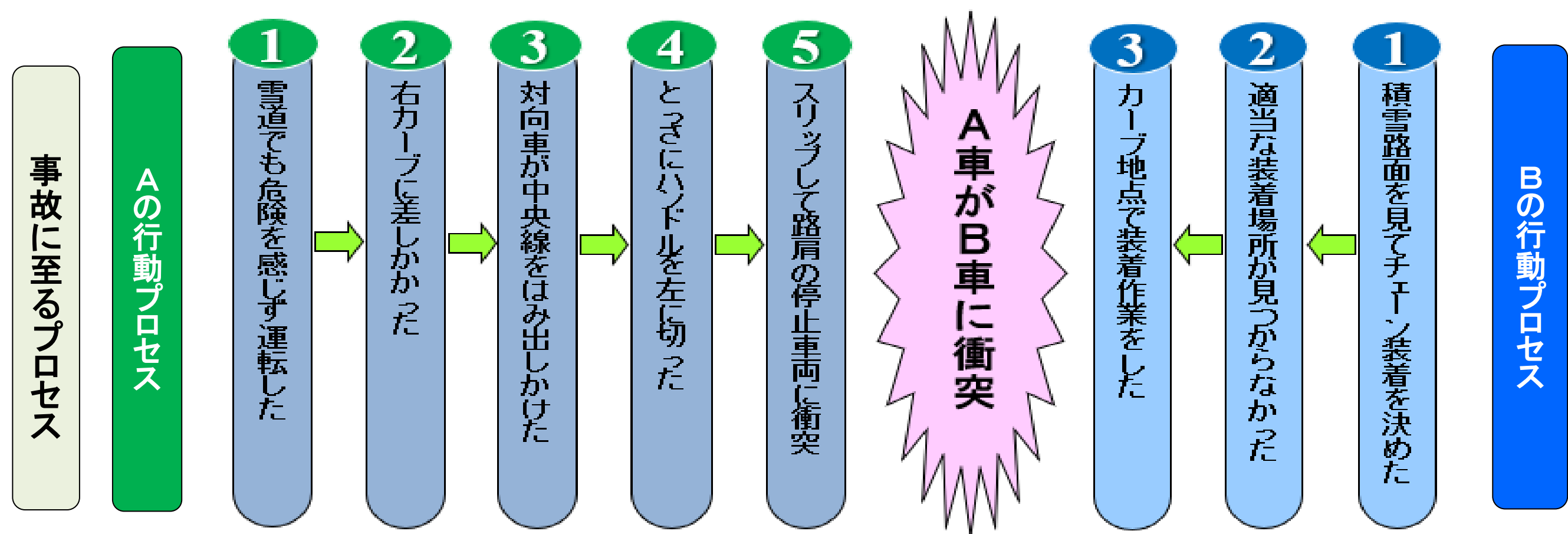
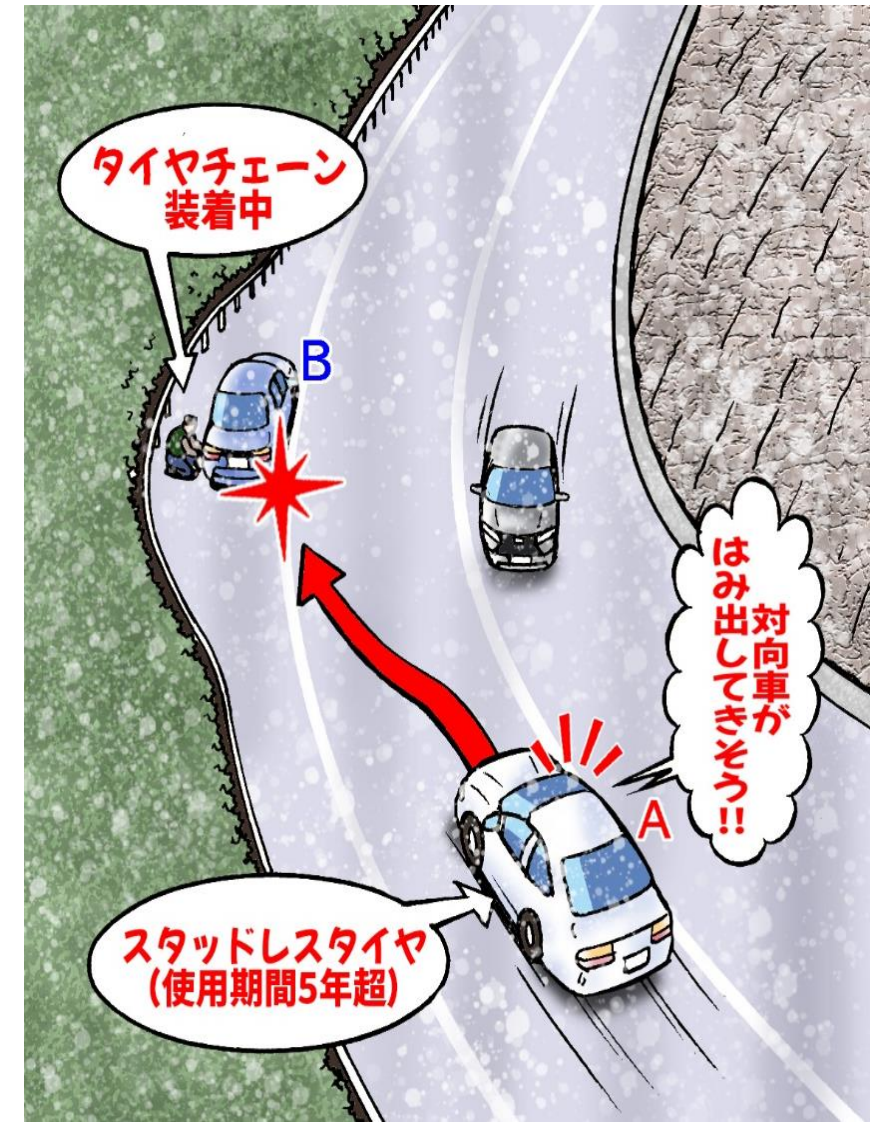
◆事故の当事者

A / 男性24歳 乗用車運転 B / 男性35歳 乗用車運転

◆事故の発生概要

Aさんは、事務用品の商社に勤務し、車で得意先を訪問しています。冬は、雪道を走ることが多く、会社の車にはスタッドレスタイヤが装着されています。ただ、使用期間は5年を超え、摩耗が進んでいました。事故当日、Aさんは、隣の県の得意先に行くため、平地から山道に入ったところから雪が降り始め、路面が白くなってきましたが、とくに危険を感じずに走行していました。やがて、右カーブに差しかかり、対向車が中央線をはみ出しかけたのを見て、とっさにハンドルを左に切ったところ、スリップして路肩でタイヤチェーンの装着作業をしていた車（B）に衝突してしまいました。

一方のBさんは、夏タイヤの車で隣の友人宅に向かっている途中でした。路肩に雪が積もり始めたのを見て山道に入り、路面が白くなってきたことから、タイヤチェーンを装着することにしました。道路外に適当な装着場所が見つからなかったために、道幅が少し広くなっているカーブ地点があったので、そこでタイヤチェーンを装着していたところA車に衝突されたのです。

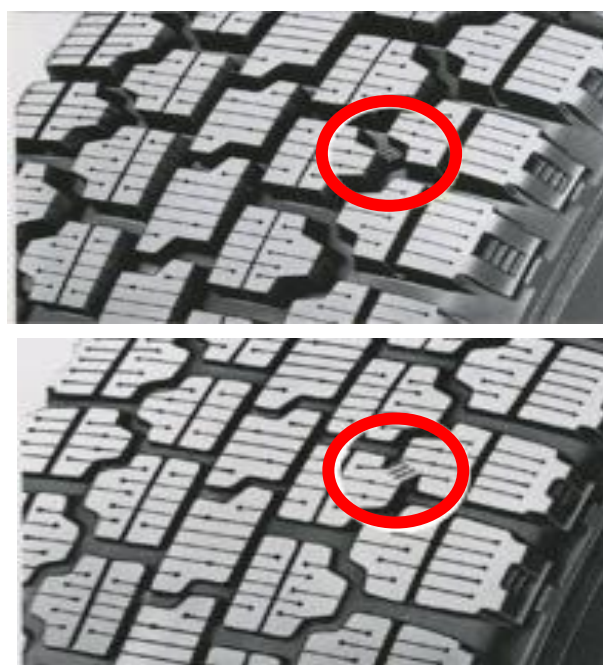


類似事故を起こさないために運転者の対策は

- **スタッドレスタイヤを過信せず、予測運転を心がける**
スリップ事故の多くは、「強いブレーキ」「とっさの急ブレーキ（急ハンドル）」が原因で起こっている。スタッドレスタイヤを過信せず、路面や周囲の状況を確認して、そうした操作をしなくても済む予測運転を心がける。
- **早めに、安全な場所でタイヤチェーンを装着する**
路面状態や対向車のタイヤチェーンの装着状況を見て、装着するタイミングを逸することなく、道路外の駐車場など安全な場所で装着する。

ワンポイントアドバイス

スタッドレスタイヤの交換の目安と特性



夏タイヤは、残り溝が1.6ミリを下回るとスリップサインが現れ、その状態で使用すると危険で法律違反となる。スタッドレスタイヤの場合は、残り溝が新品購入時の50%を下回ってプラットフォームが露出すると、冬用タイヤとして使用できなくなる。

なお、スタッドレスタイヤは、柔らかな素材からできているため、乾燥路で使用するとタイヤの減りが早くなる。そして、ゴムが硬くなったら、溝があったとしても十分な制動力を得ることができなくなる。硬度計でタイヤの硬さを点検しておこう。

上の円内のプラットフォームは新品時。下の円内のプラットフォームは50%摩耗していて、冬用タイヤとして使用できない。

Ⅳ. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	通勤中	どこで	一般道路
何をしている時に	右折レーンを走行中の車両と並走していた時		
どうなった	交差点を右折することなく通り過ぎたあと、進路変更のため自車に寄せてきたのでヒヤリとした		